

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	672300431
法人名	山形小木医科器械株式会社
事業所名	グループホームあさひ
訪問調査日	平成 20 年 12 月 4 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 4 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	672300431		
法人名	山形小木医科器械株式会社		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地 (電話番号)	山形県西村山郡朝日町大字宮宿320番地の6 (電話) 0237-67-7766		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年12月4日	評価確定日	平成21年2月4日

【情報提供票より】(平成20年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	14, 9 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	木造平屋造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,090 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	357 円	昼食 357 円
	夕食	462 円	おやつ 105 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名
要介護3	1 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 83.35 歳	最低 61 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	朝日町立病院・宮宿歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「一人ひとりを大切に～」という理念に基づき、利用者の自宅通いの支援、山形市内への買い物、職員も付き添う1時間以上の散歩など、利用者の希望や要望の実現に向けて取り組んでいるホームです。
旬の素材を取り入れた昔ながらの味付けの食事づくり、独自のリハビリ体操の導入、できるだけ薬に頼らない生活の支援、町内行事への参加や小・中学生との交流を通じた楽しみごとの提供など、「利用者にとって何が最も大切で、何が一番有効なのか」を考えながらケアが行われています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果についての話し合いは行われているが、今回自己評価は2ページずつを職員が分担して行われており、職員が自己評価の内容を把握していない部分も見られた。評価は一連の過程を職員全員で取り組むことで、職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直し等が可能となるため、評価のねらいや活用方法を全職員が理解できるよう工夫しながら、評価に取り組まれることを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2~3ヶ月ごと開催されており、評価結果、活動内容、感冒性胃腸炎対策などについての報告が行われている。また、会議で出された意見を活かし、「歩道面に向いているエアコンの排気口の向きを変えた」という事例もあった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が参加した行事の後などに、家族と話し合う機会を設けるようにしている。また、「面会に来た人や頂いた品物があった場合は家族にもすぐ報告してほしい」という要望があり、その要望に応えるようにした事例もあった。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣組の懇親会やお祭り、ピアガーデン、小学校の運動会などに参加している。また、小・中学生の課外授業やボランティアも受け入れて、地域の方々と交流する機会を作っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間でも話し合い、地域密着型サービスとしての理念が運営方針やケア方針の中に掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時や学習会の際に理念についての話がなされており、また、事務所や玄関にも理念を掲げ、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組の懇親会やお祭り、ビアガーデン、小学校の運動会などに参加している。また、小・中学生の課外授業やボランティアも受け入れて、地域の方々と交流する機会を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果についての話し合いは行われているが、今回自己評価は2ページずつを職員が分担して行われており、職員が自己評価の内容を把握していない部分も見られた。	○	評価は一連の過程を職員全員で取り組むことで、職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直し等が可能となるため、評価のねらいや活用方法を全職員が理解できるよう工夫しながら、評価に取り組まれることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2～3ヶ月ごと開催されており、評価結果、活動内容、感冒性胃腸炎対策などについての報告が行われている。また、会議で出された意見を活かし、「歩道面に向いているエアコンの排気口の向きを変えた」という事例もあった。		

山形県 グループホームあさひ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場から地域や地区の情報を得たり、利用者への対応や苦情への対処などについての相談を通して、ともに連携を密にしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの暮らしぶり(写真入り)や健康状態を書いた手紙が、請求書と一緒に家族に郵送されている。また、職員の異動については、玄関に全職員の顔写真を貼ったり、面会時に家族に伝えられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が参加した行事の後などに、家族と話し合う機会を設けるようにしている。また、「面会に来た人や頂いた品物があった場合は家族にもすぐ報告してほしい」という要望があり、その要望に応えるようにした事例もあった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃のレクリエーション等を通じて、2ユニット間の利用者と職員が顔馴染みの関係にあり、また、職員異動の人数は最小限にする配慮もなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や段階に応じた研修に参加できしており、また、毎月のユニット会議の中で、感染症や排泄についての学習も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会にも入っており、交換実習の参加や他ホームの見学などを通じて、サービスの質の向上につなげるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から学ぶことを忘れないようにしており、畑作業や調理の中で利用者から教わる場面や共に作業を行う場面をつくりながら、ともに支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の会話や表情、動作等から一人ひとりの思いを汲み取っており、また、家族にも聞きながら、会議で検討する取り組みも行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症のある高齢者一人ひとりの課題やニーズが把握できる方式を用い、利用者や家族の思いを汲み取りながら、個別の要望等を取り入れた介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直されており、利用者の状況に変化があった場合の「状況伝達」や「対処についての話し合いと支援内容の変更」も行われているが、日々の忙しさにまぎれてしまい、現状に即した新たな計画を作成するまでには至っていない。	○	現在の取り組みに加え、カンファレンスの持ち方や介護計画に落とし込んでいく過程を更に工夫することにより、利用者の現状に即した新たな計画の作成に取り組まれることも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	一人ひとりが希望するかかりつけ医に受診することがで きており、また、変化があった場合には家族への電話 報告も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	家族やかかりつけ医と早い段階から話し合いを持ち、 「事業所でできるケア」を家族に説明し、全員で方針を 共有するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	採用時に守秘義務について職員に説明し、捺印をして もらっている。また、申し送りや声掛けの際にも、プライ バシー確保の徹底が図られるようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、利用者の想いを確認 したり、察したりしながら、「散歩に行きたい」「自宅に 行ってみたい」など、利用者一人ひとりの希望や想いを 可能な限り取り入れた支援が行われている。		

山形県 グループホームあさひ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、昔懐かしい味付けになる調理方法を利用者へ聞き、また、思い出話をしながら食事を一緒に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴についての希望を利用者に毎日確認しており、一人ひとりの希望に沿った入浴の回数、時間帯、温度となるように配慮されている。また、拒否がみられた場合には、タイミングを見計らって再度声かけしたり、特殊浴槽で入浴してもらうなどの支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や畑作業、縫物、写経など、一人ひとりの特技、興味、生活歴など生かした役割や楽しみごとの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、外気浴など、その日の気分や希望に合わせた外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	一時的にやむを得ない時のみ施錠する場面もあるが、玄関へのセンサー設置、また、さりげない目配りや声かけによって、日中は施錠せずに過ごすことができている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の災害発生を想定した訓練を含む年2回の避難訓練が行われており、また、運営推進会議の中でも協力が得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎日記録され、献立内容は町立病院の栄養士の助言を受けている。また、個々に合わせた食事形態の検討や誤嚥の有無の確認も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花や利用者の作品が飾られ、畳コーナーにはコタツを置いて、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。また、台所と居間が一緒になっているため、車いす使用の利用者にも過ごしやすい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベットやダンス、仏壇、写真、花などのある、居心地のよい居室となっている。		